

# 2016年度 第2四半期連結決算概要

2016年11月7日  
**ブラザー工業株式会社**

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確実要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

## 2016年度第2四半期 連結業績概要

© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

今年度より、国際会計基準、IFRSを適用しております。比較対象となる15年度の数字もIFRSベースの数字に組み替えております。

なお、資料中に「事業セグメント利益」という科目がございますが、これは、日本基準における営業利益に近い概念の利益指標であり、営業利益と合わせて、損益管理の指標として開示してまいります。

単位：億円

	16年度 Q2累計	15年度 Q2累計	増減率 ( )は為替影響 除く増減率	16Q2	15Q2	増減率 ( )は為替影響 除く増減率
売上収益	3,103	3,415	-9.2% (+2.5%)	1,527	1,774	-13.9% (+0.7%)
事業セグメント利益	347	271	28.1%	145	118	23.5%
事業セグメント利益率	11.2%	7.9%		9.5%	6.6%	
営業利益	362	303	19.5%	151	139	8.6%
営業利益率	11.7%	8.9%		9.9%	7.8%	
税前利益	371	293	26.5%	159	127	25.7%
純利益	270	211	27.9%	117	95	23.0%
換算レート						
USD	106.43	121.50		102.91	121.91	
EUR	119.12	134.60		114.59	136.00	

- ✓ P&S事業は堅調に推移したものの、円高によるマイナス影響や、産業機器のIT向け需要が一巡した影響を吸収できず、円ベースでは減収となる
- ✓ 利益面は、円高によるマイナス影響（事業セグメント利益で▲77億円）があるものの、主にP&S事業における収益力強化に向けた取り組みの効果が一部表れたことなどにより、増益を達成

© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

3

16年度第2四半期累計実績の概要です。

売上収益は、円ベースではマイナス9%、約300億円の減収となる、3,103億円となりました。ただし、円高による影響が約マイナス400億円ありましたので、実質では2.5%の増収でした。

事業セグメント利益は、28%、76億円の増益となる347億円となりました。P&H事業やマシナリー事業が減益となったものの、今年度より「収益力強化事業」として位置付けたP&S事業が前年比約2倍と大幅な増益となりました。

以下、営業利益、純利益とも、増益となりました。

セグメントごとの数字の一覧は、4ページにまとめております。

# 2016年度Q2累計実績 セグメント別概要



単位：億円

売上収益	16年度Q2累計	15年度Q2累計	増減率	為替影響を除く 増減率
<b>全社</b>	<b>3,103</b>	<b>3,415</b>	-9.2%	2.5%
プリンティング & ソリューションズ	1,868	2,070	-9.7%	3.6%
パーソナル & ホーム	206	247	-16.5%	-3.7%
マシナリー	436	582	-25.0%	-18.9%
ネットワーク & コンテンツ	246	274	-10.4%	-10.0%
ドミノ	282	168	-	-
その他	65	75	-12.7%	-12.7%

事業セグメント利益	16年度Q2累計	15年度Q2累計	増減率
<b>全社</b>	<b>347</b>	<b>271</b>	28.1%
プリンティング & ソリューションズ	281	143	96.8%
パーソナル & ホーム	5	25	-81.9%
マシナリー	29	85	-66.0%
ネットワーク & コンテンツ	10	8	22.6%
ドミノ	19	20	-
その他	4	7	-46.3%
調整額	-1	-18	-

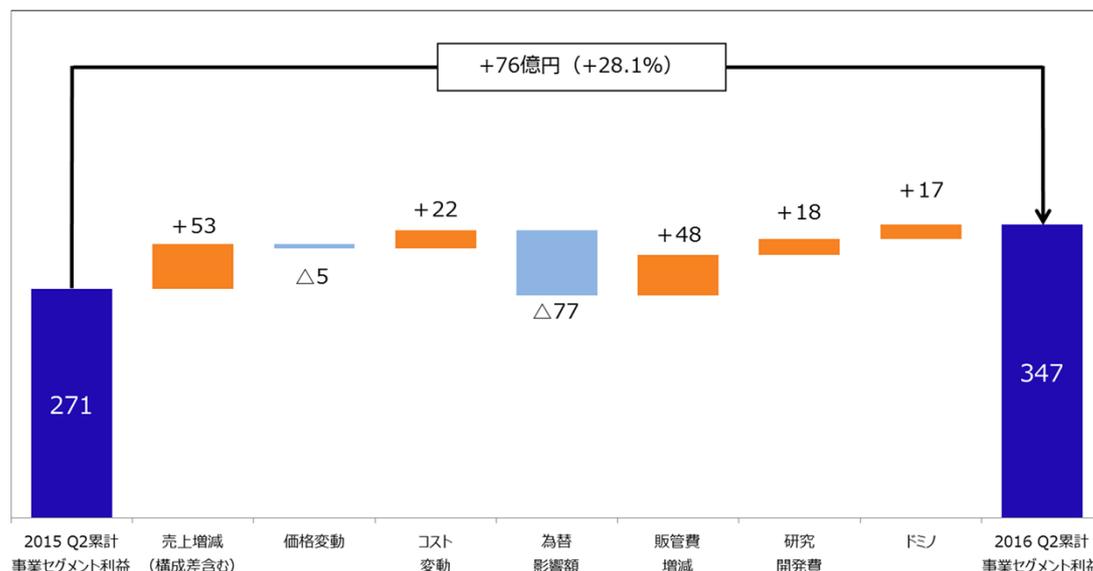
営業利益	16年度Q2累計	15年度Q2累計	増減率
<b>全社</b>	<b>362</b>	<b>303</b>	19.5%
プリンティング & ソリューションズ	303	163	85.9%
パーソナル & ホーム	5	26	-81.1%
マシナリー	31	84	-62.9%
ネットワーク & コンテンツ	0	8	-98.4%
ドミノ	19	18	-
その他	5	22	-79.0%
調整額	-1	-18	-

※ドミノ事業は、15年度第2四半期会計期間から連結を開始したため、前年比較は表示しておりません

# 事業セグメント利益増減要因（16年度Q2累計実績）



単位：億円



© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

5

第2四半期累計期間の事業セグメント利益の増減要因です。

前年同期に比べ、76億円の増益となっております。

まず売上増減の53億円の内訳ですが、

- P&S事業で +130億
- P&H事業で ▲15億
- マシナリー事業で ▲40億
- N&C事業で ▲20億 となっております。

次にコストダウンのマイナス22億ですが、大半がP&S事業に関するものです。

為替影響のマイナス77億は、8割がP&S、P&Hとマシナリーが1割ずつのイメージです。通貨毎には、ユーロが約15円円高になったことにより、約60億円、米ドルはほぼ影響なし、ポンド、RMBなどの通貨で計15億円程度のイメージとなります。

販管費増減の48億は、半分がP&S、残りがN&C、マシナリーのイメージです

研究開発費は、全社では18億の減少ですが、「収益力強化事業」であるP&S事業は20億円程度、N&C事業も5億程度減少しています。逆に、「成長領域事業」であるマシナリー事業などで増加しており、全社では18億の減少となります。

ドミノはドミノ事業に関する増減です。

17億は、昨年あったドミノの株式取得費用がなくなった影響となります。



プリンティング & ソリューションズ事業

通信・プリンティング機器/電子文具

単位：億円

	151H	161H	増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>				
P&S事業	2,070	1,868	-9.7%	3.6%
通信・プリンティング機器	1,829	1,648	-9.9%	3.4%
電子文具	240	220	-8.5%	5.4%
<b>事業セグメント利益</b>				
事業セグメント利益	143	281	96.8%	-
<b>営業利益</b>				
営業利益	163	303	85.9%	-

<売上収益>

(通信・プリンティング機器)

- ✓ 米国・中国を中心に販売が堅調に推移
- ✓ モノクロ・カラーともLBPの販売数量は前年を上回って推移
- ✓ IJPの販売数量は前年を下回るも、ハイタンクモデルへのシフトによりミックスは改善

(電子文具)

- ✓ ラベリング事業、ソリューション事業とも堅調に推移
- ✓ スマホ専用ラベルライター「PT-P300BT」を発売

<営業利益>

- ✓ 収益力強化に向けた、固定費の削減・販促費用の効率化・開発費用の削減などの効果が顕在化
- ✓ IJPのハイタンクモデルの増加により、採算性が向上
- ✓ 新興国地域における損益も改善



モノクロレーザー複合機  
MFC-L6900DW



スマホ専用ラベルライター「PT-P300BT」

通信プリンティング機器は、現地通貨ベースでは+3.4 %の増収です。  
内訳は、ハードがプラス5%、消耗品プラス2%となっています。

コメントにもありますように、米国・中国を中心に、グローバルで販売が堅調に推移しました。

なお、モノクロ・カラーとも、レーザープリンター・複合機は数量ベースで前年同期を上回っています。

インクジェット複合機については、数量は前年を下回りましたが、ハイタンクモデルや、大容量カートリッジモデルへのシフトにより、ミックスは改善しております。

電子文具も変わらず堅調が続いております。

事業セグメント利益は前年に比べ、ほぼ2倍となっております。

P&S事業は売上は3%強しか伸びていませんが、  
収益力強化に向けた、固定費の削減・販促費用の効率化・開発費用の削減などの効果が表れて  
きていることに加え、  
インクジェット複合機のハイタンクモデルの増加により、新興国での採算性が改善していること  
などが、増益の要因となっております。



パーソナル&ホーム事業

家庭用マシン

単位：億円

	151H	161H	増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	247	206	-16.5%	-3.7%
事業セグメント利益	25	5	-81.9%	-
営業利益	26	5	-81.1%	-

<売上収益>

- ✓ 先進国での需要に大きな変化はないものの、主力製品に大きなモデルチェンジがなかったこともあり、米州は前年割れとなる
- ✓ 西欧での販売は好調に推移

<営業利益>

- ✓ 円高による為替のマイナス影響に加え、主に米州において、中高級モデルの販売が想定を下回ったことにより、前年に比べ大幅な減益となる



高機能刺しゅうマシン  
XV-8550D  
©Disney



業務用刺しゅうマシン  
PR1050X

つぎに、P&H事業です。  
現地通貨ベースで、マイナス3.7%の減収となっております。

西欧は好調が続いておりますが、  
事業の成長を牽引してきた米州がマイナスとなりました。

米州ですが、需要そのものについては特に変わってはおりませんが、  
今期は主力である中高級機に、目ぼしい新製品の投入が無かったことが影響し、減収となっております。

利益は8割減と、大幅減益になりました。  
売上が大きく下がっていない中で大幅減益となっているわけですが、

まずは円高の影響が、7～8億円の減益要因となっております。  
それから、一番大きく影響しているのが、ミックスの悪化です。

昨年は1万ドル以上する高級マシンが好調だったことに比べると、今期は高級機がややスローになっています。

ということで、米州における高級機の数量減が、損益の悪化に大きく影響しています。

マシナリー事業

工業用マシン/産業機器/工業用部品

	151H	161H	増減率	為替影響 除く増減率	
単位：億円					
<b>売上収益</b>					
マシナリー事業	582	436	-25.0%	-18.9%	<b>&lt;売上収益&gt;</b> (工業用マシン) ✓ 中国での需要が伸び悩んだことに加え、円高に伴う為替のマイナス影響もあり、減収に
工業用マシン	152	126	-16.9%	-3.8%	
産業機器	340	220	-35.5%	-31.9%	
工業用部品	89	90	1.1%	4.8%	(産業機器) ✓ 中国のIT関連顧客からのスポット受注があったほか、自動車関連市場向けも、堅調に推移したものの、前年同期に計上したIT関連顧客からの大口受注がなくなったことによる反動減が大きく、大幅な減収に
事業セグメント利益	85	29	-66.0%	-	
営業利益	84	31	-62.9%	-	(工業用部品) ✓ 国内・海外とも前年並みの水準が続く



SPEEDIO  
S500X1



NEXIO  
S-7300A



GTR Fシリーズ

**<営業利益>**  
 ✓ 産業機器が大幅な減収となったことに加え、為替の円高影響や、成長に向けた先行投資の増加の影響などにより、大幅な減益に

© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

つぎに、マシナリー事業です。

今期より、旧M&S事業と工業用部品事業を統合し、マシナリー事業として開示しております。

売上ですが、現地通貨ベースで、マイナス18.9%の減収となっております。

まず工業用マシンですが、マイナス3.8%と、わずかに減収となりました。

主に中国の需要縮小が影響しております。

なお、アジア地域は、中国に変わるアパレルの生産拠点として成長が続いておりますが、景気の影響もあり、上期はやや計画未達となっております。

次に、産業機器です。

マイナス30%を超える減収です。

昨年のIT向けの特需がなくなったことが影響しています。

注力している安定向けは、堅調に拡大してはいますが、ITの落ち込みを吸収するほどではありませんでした。

工業用部品は、売上は堅調に進んでおります。

利益面ですが、

こちらは産業機器の減益による部分が大半です。



ネットワーク&コンテンツ事業

通信カラオケ機器

単位：億円

	151H	161H	増減率
売上収益	274	246	-10.4%
事業セグメント利益	8	10	22.7%
営業利益	8	0	-98.3%

<売上収益>

- ✓ カラオケ事業は、通信カラオケ機器の新モデルの投入効果が一巡したことにより、減収に
- ✓ 店舗事業は、不採算店の整理の効果もあり、堅調に推移

<事業セグメント利益>

- ✓ 店舗事業におけるコスト削減や、販管費の削減効果などにより、増益を確保

<営業利益>

- ✓ 収益力強化のための構造改革に伴う一時費用を計上した影響により、大幅な減益となる



JOYSOUND MAX



JOYSOUND 響  
HIBIKI

つぎに、ネットワーク・アンド・コンテンツ事業です。  
約マイナス10%の減収となっております。

昨年は通信・カラオケ機器の新モデルの投入がありましたが、今期はその効果が一巡しており、減収となっています。

なお、店舗事業は、不採算店の整理、駅前一等地への出店などのテコ入れの効果もあり、堅調に推移しております。

利益面ですが、事業セグメント利益は、経費削減や店舗事業のテコ入れの効果により、増益となっております。

また、中機戦略の方針に基づき、子会社のエクシングにおいて、構造改革を実施しました。営業利益が0となっているのは、構造改革の一時費用の計上によるものです。

今回の構造改革により、年間では10億強の固定費の削減が可能だと考えております。中計の目標にある、18年度に営業利益率5%をめざし、引き続き収益力強化を進めてまいります。

## DOMINO

## ドミノ事業

## ※第2四半期（7-9月期）での比較

単位：億円

	15Q2	16Q2	増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	168	137	-18.3%	13.8%
事業セグメント利益	20	11	-45.6%	-
営業利益	18	11	-40.9%	-



産業用インクジェットプリンター



デジタル印刷機

## &lt;売上収益&gt;

- ✓ 為替のマイナス影響で円ベースは減収となったものの、ポンドベースでは増収となる（現地通貨ベースではフラット）
- ✓ 新興国での景気減速の影響で設備投資が振るわず、ハードの販売が想定を下回ったものの、消耗品を含めたアフターの売上は堅調を維持

## &lt;営業利益&gt;

- ✓ 先行投資などの費用増や、円高による為替のマイナス影響により、減益となる

## &lt;トピックス&gt;

- ✓ ドミノの売上に占める英国向け比率は約8%と限られているため、「Brexit」による影響は軽微。ポンド安により、ユーロ圏向けはコスト競争力が拡大
- ✓ ドミノの一部製品の生産を、ブラザーの中国工場へ移管

© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

10

つぎに、ドミノ事業です。

連結開始が昨年のQ2からでございましたので、第2四半期3ヶ月の比較となっております。

まず売上ですが、ポンド安の影響により、マイナス14%の減収となっております。実質的な現地通貨ベースでは、ほぼフラットとなっております。消耗品などのアフターは5%を超える増収となったものの、新興国において、景気減速懸念でハードの投資が抑制されて影響が出たと考えております。

損益については、昨年に比べ減益となっております。但し、これはほぼ計画線の水準です。2020年までの5ヶ年計画に沿って、積極的な投資を行っており、昨年に比べ開発費や販管費が増えております。また、ポンド安の影響も数億円影響しております。

なお、一部の投資家の方から、Brexitの影響をご質問頂いておりますので、コメントを記載させて頂きました。

ドミノは英国企業で、英国に主力工場があるわけですが、売上に占める英国比率は全体の8%程度と非常に限られております。コスト面で見れば、現在のポンドは追い風とも考えることが出来ます。ということもあり、Brexitによる業績への影響はほとんどないと考えております。

また、一部のドミノの製品のブラザーの中国工場での生産が既に始まっております。開発面だけでなく、製造面での連携も動き出しております。

## ■ プリンティング&ソリューションズ事業

・US/日本でもIJPの大容量カートリッジモデルを投入



**INKvestment**

MFC-J985DW

・モノクロLBPの高速・高耐久モデルを一新



HL-L6400DW



MFC-L5755DW



MFC-L6900DW

・米国の独立評価機関 Buyers Laboratory LLC から、プリンター・複合機部門、スキャナ部門において、5つの「Summer 2016 Pick Awards」を受賞



## ■ マシナリー事業

・刈谷工場(第6工場)が稼働開始



## ■ 産業用印刷準事業

・レーザーマーカ「LM-2500」を発売



LM-2500



モーター部品への  
生産情報の印字



スイッチ部品への  
ロット番号の印字

今上期の主なトピックスをまとめております。

プリンティング事業では、米国や日本でも、大容量カートリッジタイプのインクジェット複合機を投入いたしました。米国では、「インクベストメント」というキャッチコピーで力をいれて取り組んでおり、デジタルメディアの活用など、今までとは違った展開を進めております。

主力のモノクロレーザー機も、グローバルで高速・高耐久モデルのモデルチェンジがほぼ完了いたしました。特に筐体が白色の製品は、従来機に比べ耐久性が2倍となり、SMB向けの拡販の中心となる製品だと期待しております。

マシナリー事業では、刈谷工場の新棟が稼働を開始しております。残念ながらIT需要の減少により、稼働率は高くありませんが、部品の内製化比率の向上、外部倉庫の削減、定置での生産スペースの拡大など、今後の事業拡大のために必要なインフラとしての役割を担っていくこととなります。

産業用印刷準事業では、第1弾の製品として、レーザーマーカを投入しております。部品のトレーサビリティの強化などのニーズを捉え、産業用領域の拡大につなげていきます

## 2016年度 連結業績予想概要

brother  
at your side

単位：億円

	16年度予想	前回予想	増減率	15年度実績	増減率 ( )は為替影響 除く増減率
売上収益	<b>6,300</b>	6,400	-1.6%	6,821	-7.6% (+3.6%)
事業セグメント利益	<b>550</b>	500	10.0%	549	0.1%
事業セグメント利益率	<b>8.7%</b>	7.8%		8.1%	
営業利益	<b>550</b>	485	13.4%	586	-6.2%
営業利益率	<b>8.7%</b>	7.6%		8.6%	
税前利益	<b>550</b>	485	13.4%	572	-3.8%
純利益	<b>390</b>	335	16.4%	412	-5.4%
換算レート					
USD	<b>105.47</b>	106.09		120.16	
EUR	<b>117.09</b>	117.25		132.36	

### <業績予想の変更ポイント>

- ・売上収益 … 進捗状況を考慮し、売上見通しを引き下げ
- ・事業セグメント利益 … P&S事業は、収益力強化が順調に進んでいる点を織り込み、見通しを引き上げ  
P&H事業は、主に売上構成の変化の影響を織り込み、見通しを引き下げ  
マシナリー事業は、工業用マシンと工業用部品の売上引き下げの影響を反映

© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

12

次に、業績予想の修正についてです。

売上収益は残念ながら100億円の下方修正となりますが、利益は上方修正をしております。

まず売上収益ですが、各事業・各地域の状況を反映し、全ての事業で前回見通しを引き下げております。

利益面ですが、事業セグメント利益は、全社で50億円の上方修正となります。

# 2016年度 連結業績予想 セグメント別概要



単位：億円

売上収益	16年度予想	前回予想	増減率	15年度実績	対前年増減率	為替影響を除く増減率
<b>全社</b>	<b>6,300</b>	<b>6,400</b>	<b>-1.6%</b>	<b>6,821</b>	<b>-7.6%</b>	<b>3.6%</b>
プリンティング & ソリューションズ	3,716	3,743	-0.7%	4,150	-10.5%	1.8%
パーソナル & ホーム	461	474	-2.8%	510	-9.7%	3.0%
マシナリー	902	936	-3.7%	993	-9.2%	-2.7%
ネットワーク & コンテンツ	502	518	-3.1%	539	-6.8%	-6.6%
ドミノ	571	582	-1.8%	483	18.3%	45.5%
その他	148	147	0.7%	146	0.8%	-1.4%

事業セグメント利益	16年度予想	前回予想	増減率	15年度実績	伸び率
<b>全社</b>	<b>550</b>	<b>500</b>	<b>10.0%</b>	<b>549</b>	<b>0.1%</b>
プリンティング & ソリューションズ	420	345	21.7%	336	25.2%
パーソナル & ホーム	25	34	-26.5%	48	-47.4%
マシナリー	46	58	-20.7%	114	-59.7%
ネットワーク & コンテンツ	18	20	-10.0%	22	-17.3%
ドミノ	37	38	-2.6%	38	-
その他	4	5	-20.0%	12	-66.1%
調整額	-	-	-	-20	-

営業利益	16年度予想	前回予想	増減率	15年度実績	伸び率
<b>全社</b>	<b>550</b>	<b>485</b>	<b>13.4%</b>	<b>586</b>	<b>-6.1%</b>
プリンティング & ソリューションズ	433	338	28.1%	390	11.0%
パーソナル & ホーム	25	34	-26.5%	49	-48.7%
マシナリー	48	56	-14.3%	114	-57.8%
ネットワーク & コンテンツ	4	18	-77.8%	-5	-
ドミノ	36	34	5.9%	35	-
その他	4	5	-20.0%	23	-82.6%
調整額	-	-	-	-20	-

※ドミノ事業は、15年度第2四半期会計期間から連結を開始したため、前年比較は表示しておりません

© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

13

事業セグメント利益をご覧ください。

まず、P&S事業は、前回予想の345億円から420億円へ、75億円の引き上げとなります。P&S事業は売上見通しをわずかに引き下げましたが、収益力強化に向けたここまでの取り組みの効果を反映し、利益については見通しを引き上げております。

P&H事業、マシナリーはそれぞれ10億程度引き下げています。P&H事業は、実績の部分でもお話した通り、主に米国において、今期はハイエンドモデルの売上が想定を下回っており、ミックスが悪くなっている影響などを織り込みました。

マシナリーは、工業用マシンと工業用部品の売上見通しの引き下げによる影響となります。

## 参考情報

# 2016年度Q2実績 セグメント別概要



単位：億円

売上収益	16年度Q2	15年度Q2	増減率	為替影響を除く 増減率
<b>全社</b>	<b>1,527</b>	<b>1,774</b>	<b>-13.9%</b>	<b>0.7%</b>
プリンティング & ソリューションズ	915	1,031	-11.2%	4.6%
パーソナル & ホーム	111	138	-19.6%	-4.9%
マシナリー	207	235	-11.9%	-3.3%
ネットワーク & コンテンツ	120	155	-22.7%	-22.4%
ドミノ	137	168	-18.3%	13.8%
その他	38	48	-20.8%	-20.8%

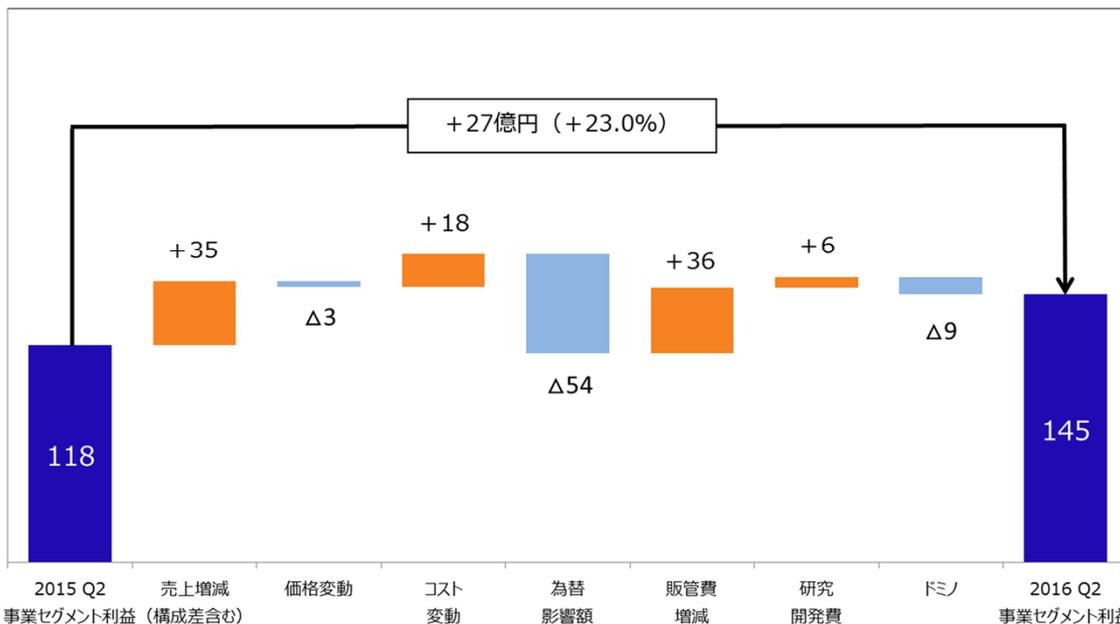
事業セグメント利益	16年度Q2	15年度Q2	増減率
<b>全社</b>	<b>145</b>	<b>118</b>	<b>23.5%</b>
プリンティング & ソリューションズ	112	40	179.4%
パーソナル & ホーム	5	19	-74.2%
マシナリー	10	23	-56.3%
ネットワーク & コンテンツ	6	11	-47.7%
ドミノ	11	20	-45.6%
その他	2	5	-64.0%
調整額	0	0	-

営業利益	16年度Q2	15年度Q2	増減率
<b>全社</b>	<b>151</b>	<b>139</b>	<b>8.6%</b>
プリンティング & ソリューションズ	124	53	134.8%
パーソナル & ホーム	5	19	-74.2%
マシナリー	12	21	-43.7%
ネットワーク & コンテンツ	-3	11	-124.0%
ドミノ	11	18	-40.9%
その他	2	18	-86.9%
調整額	0	0	-

# 事業セグメント利益増減要因 <16Q2実績>



単位：億円



# プリンティング&ソリューションズ事業 売上収益・営業利益



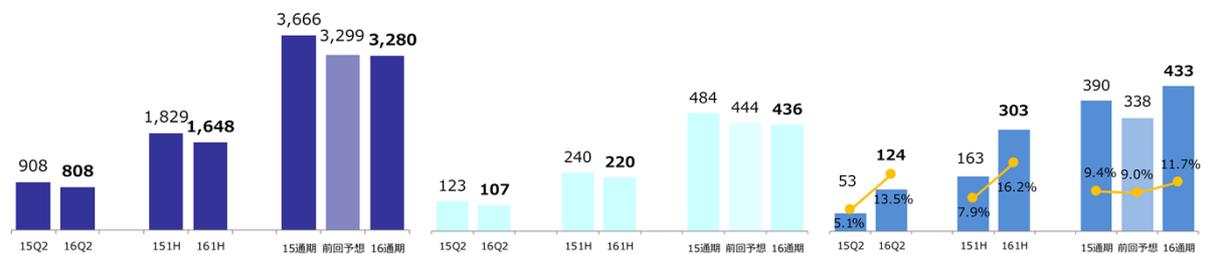
単位：億円

	15Q2	16Q2	増減率	為替影響 除く増減率	151H	161H	増減率	為替影響 除く増減率	15通期	前回予想	16通期	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	1,031	915	-11.2%	4.6%	2,070	1,868	-9.7%	3.6%	4,150	3,743	3,716	-10.5%	1.8%
通信・プリンティング機器	908	808	-11.0%	4.9%	1,829	1,648	-9.9%	3.4%	3,666	3,299	3,280	-10.5%	1.7%
米州	364	303	-16.6%	0.4%	712	630	-11.5%	3.7%	1,393	1,225	1,238	-11.1%	3.0%
欧州	264	261	-1.0%	20.3%	571	513	-10.1%	4.8%	1,221	1,043	1,054	-13.7%	0.0%
アジア他	164	134	-18.7%	-3.1%	330	275	-16.7%	-1.6%	600	543	532	-11.3%	2.7%
日本	116	111	-4.9%	-4.9%	216	230	6.3%	6.3%	453	488	456	0.7%	0.7%
電子文具	123	107	-13.2%	2.9%	240	220	-8.5%	5.4%	484	444	436	-9.9%	2.8%
米州	59	52	-11.7%	5.1%	117	107	-8.4%	6.2%	230	209	207	-10.0%	3.6%
欧州	35	30	-14.8%	3.5%	70	63	-10.8%	3.6%	147	129	128	-12.7%	0.7%
アジア他	18	16	-11.4%	6.7%	35	32	-7.7%	9.8%	69	63	63	-8.7%	6.3%
日本	10	8	-19.2%	-19.2%	18	18	-1.7%	-1.7%	38	44	38	-0.4%	-0.4%
事業セグメント利益	40	112	179.4%	-	143	281	96.8%	-	336	336	420	25.2%	-
営業利益	53	124	134.8%	-	163	303	85.9%	-	390	338	433	11.1%	-

<売上収益> 通信・プリンティング機器

<売上収益> 電子文具

<営業利益>



© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

## <通信・プリンティング機器の本体・消耗品別の対前年売上伸び率（為替を除く）の内訳>

	Q1	Q2	上期	通期
本体	+13%	▲2%	+5%	+4%
消耗品	▲4%	+9%	+2%	0%

## <通信・プリンティング機器の印字カテゴリー別の対前年売上伸び率（為替を除く）の内訳>

	Q1	Q2	上期	通期
インクジェット	一桁前半%の増加	5%強の増加	一桁前半%の増加	一桁前半%の減少
レーザー	一桁前半%の増加	5%弱の増加	一桁前半%の増加	一桁前半%の増加
サーマル他	20%強の減少	20%強の減少	20%強の減少	30%弱の減少

## <通信・プリンティング機器の売上収益に占める消耗品比率>

	Q1	Q2	上期	通期
消耗品比率	59%	61%	60%	60%

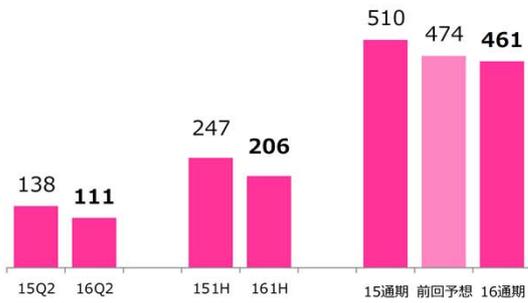
# パーソナル&ホーム事業 売上収益・営業利益



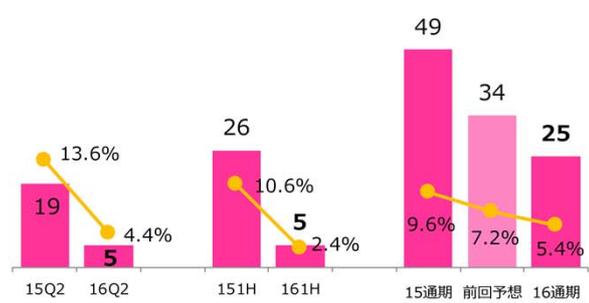
単位：億円

	15Q2	16Q2	増減率	為替影響 除く増減率	151H	161H	増減率	為替影響 除く増減率	15通期	前回予想	16通期	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	138	111	-19.6%	-4.9%	247	206	-16.5%	-3.7%	510	474	461	-9.7%	3.0%
米州	90	71	-21.9%	-5.6%	151	119	-21.1%	-6.6%	304	278	270	-11.1%	3.6%
欧州	23	19	-15.7%	-0.1%	45	42	-6.2%	6.4%	101	92	90	-10.9%	1.3%
アジア他	15	12	-20.8%	-8.1%	32	27	-16.5%	-3.8%	62	60	57	-7.3%	5.1%
日本	10	9	-4.7%	-4.7%	19	18	-4.0%	-4.0%	43	45	43	0.0%	0.0%
事業セグメント利益	19	5	-74.1%	-	25	5	-81.9%	-	48	34	25	-47.4%	-
営業利益	19	5	-74.2%	-	26	5	-81.1%	-	49	34	25	-49.0%	-

<売上収益>



<営業利益>



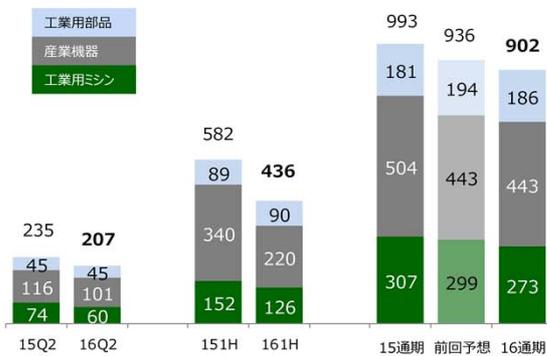
# マシナリー事業 売上収益・営業利益



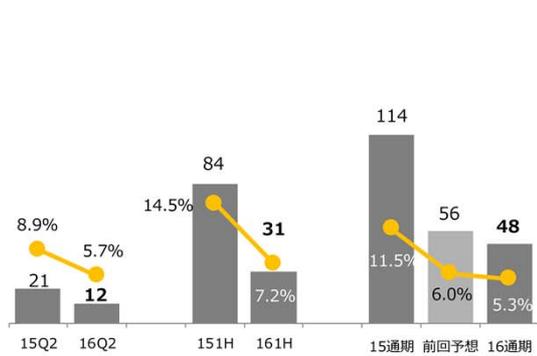
単位：億円

	15Q2	16Q2	増減率	為替影響 除く増減率	151H	161H	増減率	為替影響 除く増減率	15通期	前回予想	16通期	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
売上収益	235	207	-11.9%	-3.3%	582	436	-25.0%	-18.9%	993	936	902	-9.2%	-2.7%
工業用マシン	74	60	-18.8%	-2.8%	152	126	-16.9%	-3.8%	307	299	273	-11.1%	2.0%
産業機器	116	101	-12.4%	-6.7%	340	220	-35.5%	-31.9%	504	443	443	-12.2%	-8.7%
工業用部品	45	45	0.7%	4.6%	89	90	1.1%	4.8%	181	194	186	2.4%	5.9%
事業セグメント利益	23	10	-56.3%	-	85	29	-66.0%	-	114	58	46	-59.7%	-
営業利益	21	12	-43.7%	-	84	31	-62.9%	-	114	56	48	-57.9%	-

<売上収益>



<営業利益>



# マシナリー事業 売上収益・営業利益 (地域別)

brother  
at your side

単位：億円

	15Q2	16Q2	増減率	為替影響 除く増減率	151H	161H	増減率	為替影響 除く増減率	15通期	前回予想	16通期	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>235</b>	<b>207</b>	-11.9%	-3.3%	<b>582</b>	<b>436</b>	-25.0%	-18.9%	<b>993</b>	<b>936</b>	<b>902</b>	-9.2%	-2.7%
<b>工業用マシン</b>	<b>74</b>	<b>60</b>	-18.8%	-2.8%	<b>152</b>	<b>126</b>	-16.9%	-3.8%	<b>307</b>	<b>299</b>	<b>273</b>	-11.1%	2.0%
米州	16	14	-16.4%	-0.1%	32	27	-17.6%	-4.5%	63	55	53	-15.1%	-1.8%
欧州	11	9	-16.9%	-1.4%	23	22	-5.1%	7.7%	46	46	46	-0.8%	12.5%
アジア他	45	36	-21.1%	-4.6%	93	75	-19.9%	-6.3%	192	183	168	-12.8%	0.5%
日本	2	2	12.3%	12.3%	3	3	-6.2%	-6.2%	6	16	7	6.1%	6.1%
<b>産業機器</b>	<b>116</b>	<b>101</b>	-12.4%	-6.7%	<b>340</b>	<b>220</b>	-35.5%	-31.9%	<b>504</b>	<b>443</b>	<b>443</b>	-12.2%	-8.7%
米州	7	7	-8.0%	-	13	14	6.3%	-	25	29	29	16.6%	-
欧州	5	5	0.5%	-	13	11	-15.8%	-	19	24	22	11.6%	-
アジア他	87	71	-18.4%	-	283	160	-43.2%	-	392	292	305	-22.2%	-
日本	16	18	13.7%	-	32	35	7.9%	-	68	97	88	28.4%	-
<b>工業用部品</b>	<b>45</b>	<b>45</b>	0.7%	4.6%	<b>89</b>	<b>90</b>	1.1%	4.8%	<b>181</b>	<b>194</b>	<b>186</b>	2.4%	5.9%
米州	7	6	-16.0%	-0.3%	14	13	-5.7%	8.0%	28	28	26	-7.2%	6.2%
欧州	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アジア他	4	4	-15.3%	0.6%	8	8	-2.4%	15.3%	15	16	16	11.8%	28.6%
日本	34	36	6.2%	6.2%	68	70	2.8%	2.8%	139	150	144	3.4%	3.4%
<b>事業セグメント利益</b>	<b>23</b>	<b>10</b>	-56.3%	-	<b>85</b>	<b>29</b>	-66.0%	-	<b>114</b>	<b>58</b>	<b>46</b>	-59.7%	-
<b>営業利益</b>	<b>21</b>	<b>12</b>	-43.7%	-	<b>84</b>	<b>31</b>	-62.9%	-	<b>114</b>	<b>56</b>	<b>56</b>	-50.8%	-

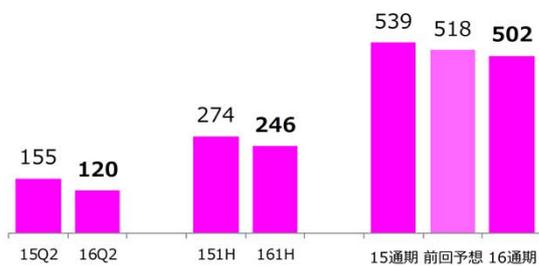
# ネットワーク&コンテンツ事業 売上収益・営業利益



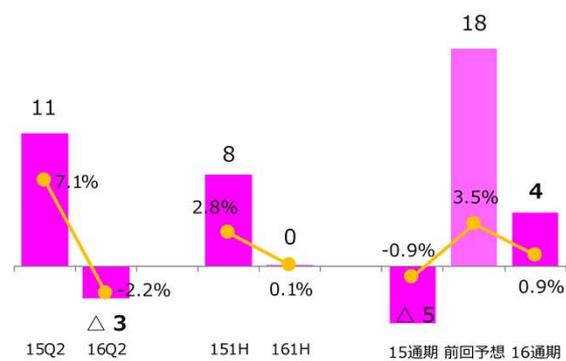
単位：億円

	15Q2	16Q2	増減率	151H	161H	増減率	15通期	前回予想	16通期	対前年増減率
売上収益	155	120	-22.7%	274	246	-10.4%	539	518	502	-6.8%
事業セグメント利益	11	6	-47.7%	8	10	22.7%	22	20	18	-17.2%
営業利益	11	-3	-124.0%	8	0	-98.3%	-5	18	4	-

<売上収益>



<営業利益>



# ドミノ事業 売上収益・営業利益

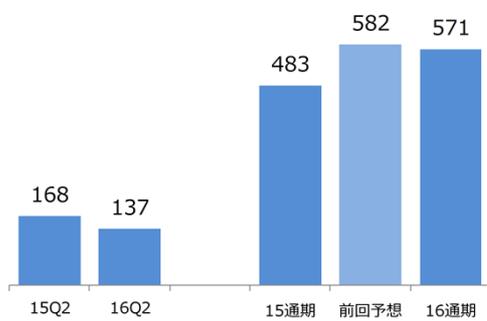
brother  
at your side

単位：億円

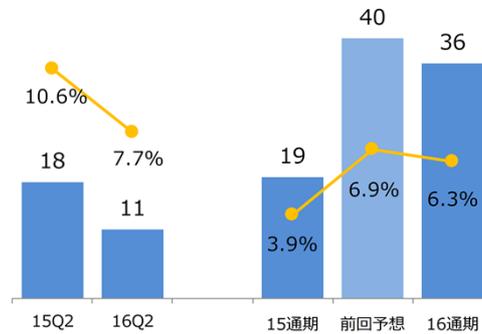
	15Q2	16Q2	増減率	為替影響 除く増減率	15通期	前回予想	16通期	対前年 増減率	為替影響 除く増減率
<b>売上収益</b>	<b>168</b>	<b>137</b>	<b>-18.3%</b>	<b>13.8%</b>	<b>483</b>	<b>582</b>	<b>571</b>	-	-
米州	38	34	-10.7%	24.4%	112	136	135	-	-
欧州	81	63	-21.7%	9.1%	239	290	278	-	-
アジア他	49	40	-18.7%	13.3%	133	156	158	-	-
<b>事業セグメント利益</b>	<b>20</b>	<b>11</b>	<b>-45.6%</b>	-	<b>38</b>	<b>40</b>	<b>37</b>	-	-
<b>営業利益</b>	<b>18</b>	<b>11</b>	<b>-40.9%</b>	-	<b>19</b>	<b>40</b>	<b>36</b>	-	-

※15年度は連結を開始した第2四半期以降の9か月分の業績  
 ※第2四半期累計値は前年との比較ができないため記載を省略  
 ※現地通貨ベースの伸び率は、ポンドベースでの増減を示す

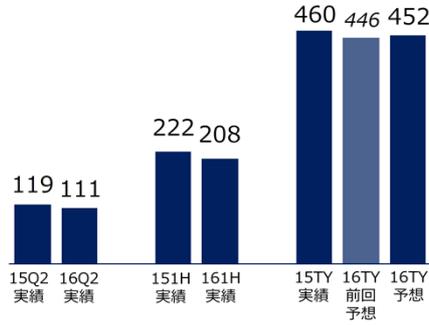
<売上収益>



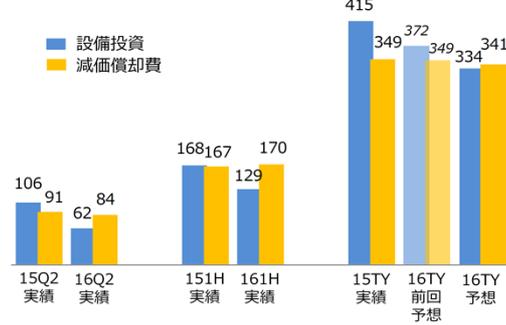
<営業利益>



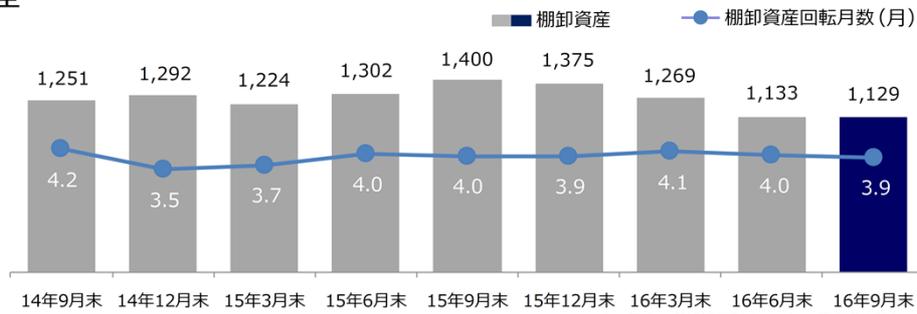
研究開発費  
(億円)



設備投資・減価償却費  
(億円)



棚卸資産  
(億円)



※15年6月末の棚卸資産残高にはドミノ事業分を除外して表示しております  
 ※棚卸資産回転月数 = 棚卸資産 ÷ (1ヶ月平均売上原価)

**brother**  
at your side